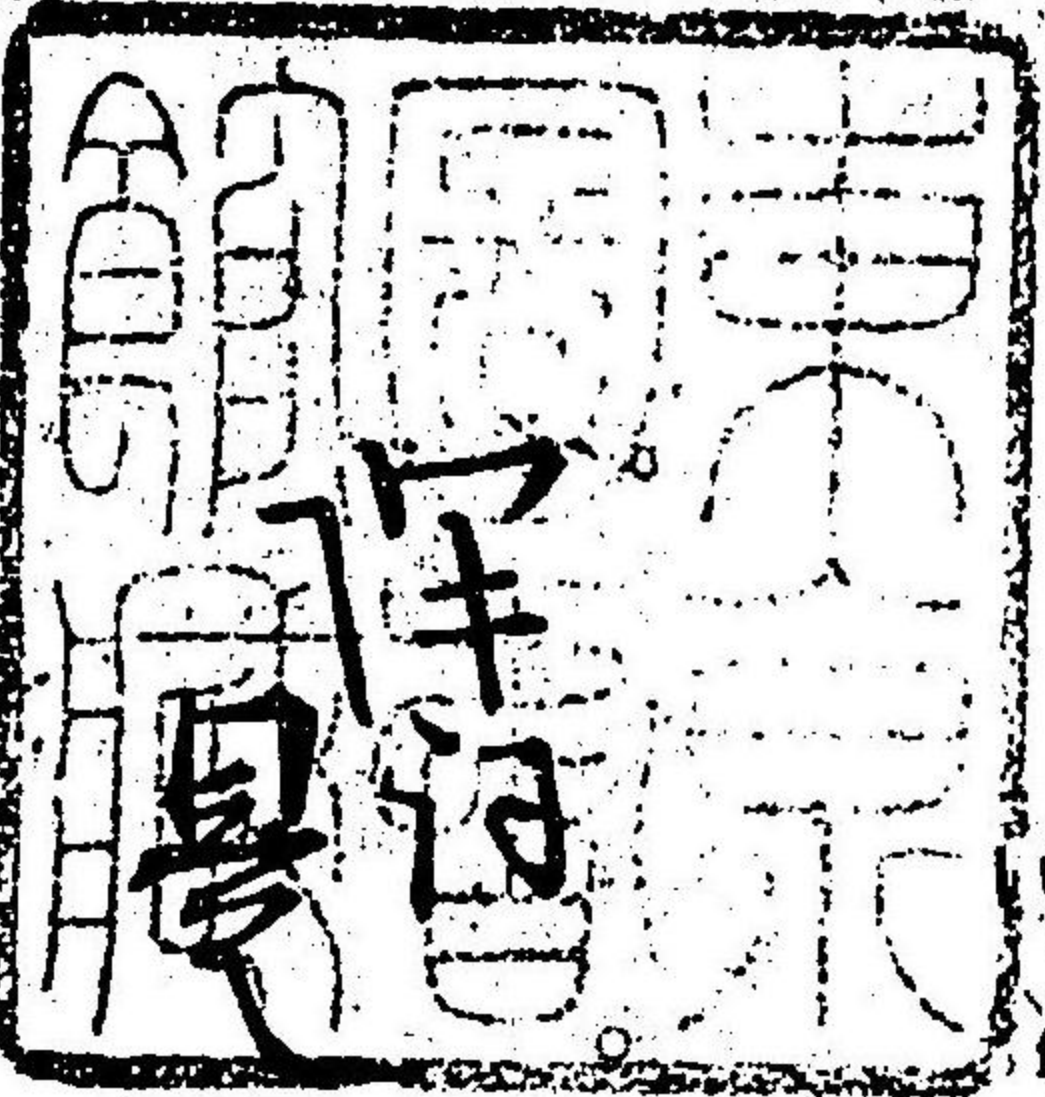


459

杜若
19

東 京 圖 書 館				
一 一 〇 冊	一 號	四 七 架	函	音 樂 類
				和 書 門



杜若

諸國一見僧多我此回ハ
都より多く洛陽乃名前曰蘇氏

有く一見仕アては又是より東國

行脚と志ハ 多ク アク 多ク 行

富の者まへは 多ク 行 多ク 行

みのたかり三行國名多き

早河

意同程あり三河の國を思ふは

あはれ傳ふ杜若の今も昔も

ていさより詠ふも思ふも

陰とまらぬ夏も冬も

あはれやせ共けと春も秋の

あはれやせ共けと春も秋の

あはれやせ共けと春も秋の

杜若もあはれやせ共けと春も秋の

早河

具はよむとらひ給ふそ 見入諸

國一見乃者あていり杜若の面白

詠看ていれ梅愛せり行くも

女

是社三河國の橋とて杜若乃名所

あはれやせ共けと春も秋の

名所あはれやせ共けと春も秋の

あはれやせ共けと春も秋の

あしりては国を以て橋のたより
物も公の奥運はたけのたより
もかき 國の所多き花をとりて
花の末如きて 女 男の腹に橋の
三の澤は杜若 女 女のまゝ
まゝ 男の父をまゝのこして
まじりて業平おれ共 女 籠の花を

今 女 上巻の 杜若はあそびたぐそ
杜若はく澤の秋の味を楽に
人 橋のたよりおもしろい
まゝも松人よ音を語らまゝのた
わさく 女 男の 申入
女 見苦敷
今 女 女

あまの讀とくわの言の勢まても皆
は身取はまの妙文あわの草なまて
露の惠乃^カ松の縁乃^カくぬき
^甲是ハ事母の雲物外^カ正^カ非^カ精乃
亦本よ詞^カと^カか^カる^カ法^カの^カ色^カ 佛^カを
あまも葉平乃^甲音男の舞乃^甲す
是^甲う^甲則^甲の^甲美^甲膚^甲乃^甲 候^甲も^甲身^甲

と葉平乃^甲 本地^甲涼^甲えの^甲初^甲と^甲ち^甲き
普^甲く^甲海^甲度^甲 利^甲生^甲の^甲 道^甲より^甲く
まぬ^甲から^甲衣^甲く^甲ま^甲つ^甲も^甲舞^甲と^甲か^甲あ^甲ら
ら^甲ん^甲 ち^甲ま^甲い^甲の^甲う^甲ら^甲ま^甲の^甲唐^甲衣^甲
地^甲と^甲都^甲み^甲み^甲さ^甲も^甲 柳^甲此^甲お^甲詔^甲を
い^甲ぬ^甲く^甲人^甲の^甲行^甲ふ^甲ま^甲つ^甲く^甲思^甲ひ^甲露^甲
の^甲ま^甲は^甲ひ^甲と^甲母^甲の^甲角^甲の^甲道^甲ま^甲の^甲勢^甲

下...
上...

あく終りも新 首男う力冠

志く大長良の奈ま身ままま...

しとりのよかよきり 仁明天皇の御宇

かよよくもりしま 勅よりききて大

内山の妻震だつちよほまのあつて

春自の奈乃勅はとてま...

け冠とけららね 君の惠のあつて

故殿とあつて元服乃り 當付其例

稀ある故よりかふとハ申とりや

御身共世の中の一度ハ栄へたはし

まごころの御りの誠ありきるまれ

ゆけり可もこもて東の方子

行雲のぶきもたりの海つらまは

とみくまはくまはくまはくまは

明治十七年三月六日翻刻御届
同。年四月十一日別製本御届

定價四錢

翻刻人

京都府平民

寺田熊次郎



下京區第五組麩屋町

錦小路五梅屋町十三番戶

